

今日のトピック 最近の指標から見る中国経済（2016年6月）

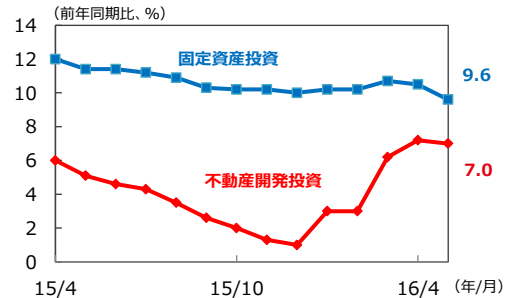
構造改革強化で投資鈍化も先行き安定成長へ

ポイント1 5月の固定資産投資が減速

民間投資が低調

- 中国国家统计局が発表した1～5月の固定資産投資は前年同期比+9.6%と、1～4月の同+10.5%より伸び率が0.9ポイント縮小しました。前年同期の伸び率が10%を下回るのは2000年以来16年ぶりです。内訳をみると、公共投資は堅調でしたが、民間投資が同+3.9%と低調でした。
- これまで牽引してきた不動産開発投資が前年同期比+7.0%と、1～4月の同+7.2%から鈍化したことも固定資産投資全体が減速した要因です。

固定資産投資と不動産開発投資



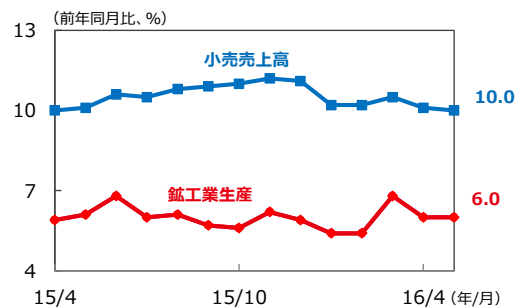
(注) データは2015年4月～2016年5月。年初来累計の前年比。1月、2月は1-2月平均の前年同期比。数字は2016年5月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 鉱工業生産は安定した推移

個人消費はしっかり

- 5月の鉱工業生産は前年同月比+6.0%と、4月の同+6.0%から伸び率が横ばいでした。ブルームバーグ集計の市場予想通りであり、安定した伸び率でした。
- 個人消費は引き続きしっかりしています。5月の小売売上高は、前年同月比+10.0%と、4月と比べて伸び率が0.1ポイント縮小しましたが、高水準を維持しています。

鉱工業生産指数と小売売上高



(注) データは2015年4月～2016年5月。1月、2月は1-2月平均の前年同期比。数字は2016年5月。
(出所) 中国国家统计局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 構造改革路線強化で投資鈍化も長期的には安定成長へ

- 5月の固定資産投資が減速した背景には、習近平指導部が過剰設備の廃棄など構造改革路線を掲げていることで、政策に敏感な民間企業が投資に慎重になったことが考えられます。また、構造改革により鉄鋼や石炭の生産設備の整理が進めば、生産も先行き減速する可能性があります。
- ただし、中国政府は景気の上振れ・下振れに対して政策対応を行う意向を示しています。短期的な景気減速に目配せしながら、構造改革を押し進めることで長期的に景気が安定する方向が示されれば、中国経済に対する投資家の懸念が後退するものと期待されます。

ここも
チェック! 2016年6月13日 「権威人士」とは? (中国)
2016年6月 7日 再びの「元安」(中国)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。